

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「そよ風憲章」という法人としての理念はあるが、長文であるためか、職員に浸透しきれていない。グループホームとして皆が共有できる理念をつくりあげたい。	単純明快で誰にでもわかりやすく、管理者と現場職員が共有して実践していく理念をつくる。	グループホーム会議において、管理者と現場職員が共有して実践していく理念を作る。その理念に沿ったサービスが提供できているか、月に1度のグループホームの全体会議にて検証していく。	3ヶ月
2	6	法人として身体拘束はおこなわないという方針は徹底されているが、一部の現場職員で利用者に対する声かけの仕方が悪い職員がおり、身体拘束とは身体だけでなく、心も拘束しないことだという理解が必要。	介護の基本である利用者本位の意味を再度全職員がしっかりと理解し、利用者の気持ちに添ったケアができるグループホームになる。	会議の場や現場等で言葉使いを注意しあえる職員の関係をつくる。また、職員の都合で利用者がやりたい事をできないのではなく、職員から積極的に行きたい場所、やりたい事、食べたい物等を吸い上げ叶えていく。	3ヶ月
3	4	運営推進会議の議題が広がりがなくなってきていたり、参加者が固定化してきてしまっている。	議題をより家族が参加したいと思えるような内容に工夫していき、より活発な意見交換ができる場とする。	他施設の会議内容などの情報収集をしたり、家族にアンケートでどのような議題が良いか確認しながら会議を開催していく。	5ヶ月
4	11	会議の中での活発な意見交換や合意の上での意思決定が不十分で、現場職員の声が反映されない面がある。	活発な意見交換ができる会議を目指し、必ず決定会議とし職員の意見をすり合わせ実行していく。	会議における司会進行のスキルアップや事前に議題を周知し、それぞれが自分の考えをまとめた上で会議に臨む仕組みをつくる。	3ヶ月
5					ヶ月